

西安外国語大学と 学術交流協定締結

副学長（研究担当） 国際交流・地域連携委員会委員長 淡野明彦

2005年6月30日、中国の西安市にある西安外国語大学（協定締

結当時は西安外国語学院、Xian International Studies University）から学長代理として劉副学長を迎え、学術交流協定を結びました。



協定書を交わす劉副学長と柳澤学長



西安外国語大学図書館

本学はこれまでアメリカ合衆国のロックハイブ大学、セントラルミシガン大学、ドイツのハイデルベルク大学、タイのR141大学、韓国の嶺南（ヨンナン）大学、ルーマニアのブカレスト大学、フランスのリヨン第三大学、インドネシア教育大学と学術交流協定を結び、教員や学生の相互派遣を行い、国際交流を推進しています。

今回は初めて中国の大学との協定で、国立大学法人となった昨年度に作成した中期目標・計画に掲げるアジアとの交流の強化を図るためのものです。

西安外国語大学は、1952年に英語、ロシア語、フランス語、ドイツ語、日本語などの多くの外国語を教える中国西北地区で唯一の国立大学として創設されました。当初は単科大学でした

が、その後、外国語教育をベースとして国際政治、国際経済、国際観光、比較文学などの学部や大学院を増設し、現在は教員数約400名、学生数は大学院生を含んで約9000名の大学です。以前から本学へ10名近く留学生がやってきており、主に日本文学、比較文学を学んでいました。留学生のなかには西安外国語大学の教員として日中の交流に活躍している人もいます。なお、西安外国語大学はこれまでに日本では福井大学、京都府立大学、京都外国語大学、大阪経済大学などと学術交流協定を結んでいます。

本学が西安外国語大学と学術交流をする意味合いは、単に中国にある大学というのではなく、かつて長安と呼ばれた西安と奈良が深い歴史的な由緒が

あるということなのです。すなわち、平城京は唐の都であった長安を模して造営されたということです。その歴史的な関係から奈良市と西安市は友好都市として文化交流が進められており、今回の協定締結により地域と大学とが一体となった交流が可能となりました。

また、学内にある吉備塚は、奈良時代の第一級の学者・官人として知られる吉備真備（きびのまきび・695～775）の墓と伝えられており、この吉備真備は第8次の遣唐使に任命され、長安に2回渡っています。さらに、奈良県は全国一の三カ所もの世界遺産をもつ地域であり、西安にも秦の始皇帝陵、兵馬俑坑といった超一級クラス世界遺産があり、この点でも共通性があります。

2006年3月に西安外国語大学との交流事業を具体化するために、留学生担当教員、学生担当職員と西安外国語大学を訪問しました。

協定締結後、初めての学術交流として2006年7月に西安外国語大学で開催される国際シンポジウムへ本学教員の参加要請がありました。学生交流として西安外国語大学漢学院の外国人留学生向け中国語研修プログラム（春休み、夏休みコース）の説明があり、学生寮など留学生の利用できる学内施設を見学しました。

今後、言語教育、日中文学及び文化、比較文化、国際理解教育の分野を中心として、相互の研究交流や教員及びび学生的人的交流を推進する予定です。